

《研究員活動報告》

「戦後処理政策と地域秩序の再編 ——中国、台湾、香港の場合」

日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）（一般）
助成プロジェクト（課題番号：13410110）
研究年度：2001－04（平成13－16）年度

別 枝 行 夫

本報告は、島根県立大学教員を中心に編成された日本学術振興会・科学研究費補助金プロジェクト「戦後処理政策と地域秩序の再編——中国、台湾、香港の場合」（2001－04年度）の最終報告である。学術振興会に提出した「最終報告書」（全208頁）と、2年前に公刊した、研究中間報告にあたる『台湾・国史館典藏・行政院賠償委員会档案目録』（別枝行夫・貴志俊彦・川島真編／全261頁）をあわせて私共のプロジェクトの成果報告とするが、ここでは「最終報告書」の内容を要約する。

最終報告書は全4部からなる。第1部はプロジェクト終了にあたって提出された報告であり、各プロジェクト参加研究者が分担執筆したものである。第2部は04年12月に2日間に亙り開催したプロジェクト最終シンポジウム「戦後処理政策と地域秩序の再編」の報告集である。第3部は04年11月に開催した研究会「日本敗戦時の接收および人材留用問題」の報告集である。第4部は03年1月に開催したシンポジウム「日本外交と中国—日華平和条約を中心とした再検討」であるが、紙幅の関係もあり別枝による基調報告のみを収録した。以上3回のシンポジウム・研究会以外にも本プロジェクトは小さな研究会を何回も実施したが、これらの成果は最終報告に反映されているので何れも収録を省略している。また、プロジェクトのメンバーが研究期間中に中国・台湾・米国において史料収集を実施した際に現地で行った研究レビューも同様の理由で収録していないことをお断りする。

以下、最終報告書の目次を再録する。

はしがき	別枝 行夫	
[第1部]（執筆者＝本プロジェクト共同研究者）（末尾の数字は頁）		
対日抗戦損失調査機構の変遷	貴志 俊彦	1
挫折した中華民国の対日賠償請求——台湾所蔵の文書からの考察	貴志 俊彦	5
文書目録：中華民国駐日代表団日本賠償及帰還物資接收委員会	貴志 俊彦	14

文献解題：ソ連支配下の大連	井村 哲郎	40
史料解題：吉林省社会科学院満鉄資料館所蔵未公開史料	井村 哲郎	50
中国第二歴史档案館所蔵接收関係史料	唐 燕霞	59
対日賠償請求と中華民国	川島 真	66
東北解放軍医療隊で活躍した日本人——ある軍医院の軌跡から	鹿 錫俊	75
日本の賠償と平和システムとしての日本国憲法（要約）	小野田摂子	90
Post-War Peace System and Reparations: Japan and the Neighboring		
Countries	ONODA Setsuko	91
新中国建国前後の日中貿易——民間団体の動向を中心に	別枝 行夫	108
[第2部] 国際シンポジウム「戦後処理政策と地域秩序の再編」		126
「帝国」の遺民——在華邦人問題の形成過程	大澤 武司	127
	(日本学術振興会・特別研究員)	
中国学術界關於建国初期的“一辺倒”外交研究術評	胡 礼忠	131
	(上海外国語大学・国際問題研究所教授)	
「総合安全保障」と「環太平洋構想」への一階梯	小池 聖一	145
	(広島大学総合科学部助教授・広島大学文書館館長)	
第2次大戦後 東アジアにおける感染症の流行と国際秩序	飯島 渉	159
	(青山学院大学文学部教授)	
中ソ同盟・朝鮮戦争と対日和約問題	沈 志華	163
	(華東師範大学教授)	
[第3部]		
研究会「日本敗戦時の接收および人材留用問題」		188
戦後初期における中国政府の台湾在住日本人留用政策	呉 文星	189
	(台湾師範大学歴史学部教授)	
[第4部] シンポジウム「日本外交と中国——日華平和条約を中心とした再検討」		202
内容簡介	別枝 行夫	203

この研究プロジェクトが目指した目標の一つは「戦争の終わらせ方」の研究にある。1945年8月15日、日本はついに降伏するが、この日に全ての戦争が終了したわけではなかった。アジア各地における「日本の戦争」はその地域ごとに異なる「終わらせ方」ないし「終わらせられ方」を持っていた。例えば中国東北地域で言えば、ソ連の参戦、東北侵攻そして

日本資産の接收に始まり、国民党、共産党が相次いで接收事業に取り組んだ。この輻輳したプロセスを、今回の報告書で解明しきれたとはいえず、今後課題を残したが、第1部の収録論文では、貴志、井村、唐、川島の各論文ならびに文献解題がその過程に触れている。就中、川島は中華民国の対日賠償請求問題に関する史料発掘で大きな成果を収めた。かつて日本における中国の対日賠償請求ないし戦後補償問題に関する研究の殆どは米国の史料館に収められた文書ないしは台湾で公開された史料集を用いて行われてきたが、川島は台湾で公開され始めた史料群に最初に着目して解析を開始した。この企てに貴志・別枝が参加し、国史館所蔵の「中華民国行政院賠償委員会」档案を目録化したのが最初に述べた中間報告である。この膨大な档案には行政院が1944年以降中国各地で実施した戦争被害に関する詳細な調査の結果が収められており、南京事件（南京大虐殺）に関わる調査も含まれている。さらに貴志は台湾中央研究院近代史研究所档案館所蔵の「中華民国駐日代表团日本賠償及帰還物資接收委員会」の中から新たに日本資産の接收関連の史料を発見した。本報告書にはその目録を掲載したが、上記の賠償委員会档案が中国大陸での被害調査を中心とした文書であるのに対し、これは日本資産接收関係が中心である。今後、戦後補償や接收事情に関する歴史研究の基礎史料として台湾の公開史料の活用は欠かせないものとなるだろう。

接收関連史料については唐が南京の中国第二歴史档案館で調査閲覧を実施したが、史料の複写を許されず、今回の報告では概要紹介にとどまった経緯を紹介している。近年、中華人民共和国で史料公開が進行しているが、その閲覧、複写等においては档案館側の利用規則が多分に恣意的に運用されており、まだ混乱が残っている。研究期間中に鹿・別枝は吉林省长春市（旧・新京）の档案館、図書館等で史料を渉猟したが、満洲国関連の殆どの文献・史料に関し閲覧の厳しい規制を受けた。他方、鹿・別枝は同じく長春市の「吉林省社会科学院満鉄資料館」で未公開史料閲覧を許され、かつ複写も認められた。このとき入手した史料の内、例えば「国民党接收興業銀行的情況報告」（手書き文書。全429葉）は満洲興業銀行吉林支店が国民党に接收された際の極めて詳細な報告書であり、正・副2部が作成された内の副本で、一葉一葉に副支配人が押印している。破損部分の修復と読み取りに手間どり、その他の多くの未公開史料と合わせ、今回は井村による史料解題に留まったが、今年度より島根県立大学大学院北東アジア研究科の博士後期課程大学院生の助力を得て本格的な解析を開始した。

鹿は上記中国の他に台湾でも史料収集を行い、本報告書にはいわゆる留用問題に関する論文を掲載した。小野田は戦後日本復興期における賠償と日本国憲法に関する論文を寄稿した。別枝は、プロジェクトの中では主として戦後処理期の日中関係を担当し、本報告書には終戦直後の中国東北との貿易に関する報告を掲載した。プロジェクトの後見役として、研究の全体計画を監修し、その方向性を定めたのは宇野である。宇野は島根県立大学学長の激務の傍ら4年間各メンバーに研究の指針を示し、常に貴重な助言を行った。メンバー

中、中園は公務の多忙と、健康を害したことから今回の報告書に報告を収録できなかった。香港に関する研究が進行していただけに残念である。

4年間のプロジェクト期間は終了したが、戦後処理政策と地域秩序の再編に関する研究は、新しい史料の公開や発掘に伴って今後一層の発展が期待できる分野であり、共同研究を行ったメンバーは、上述した台湾や中国の未解析史料活用を含め、すでに今回のテーマの延長上での研究を開始している。

戦後処理政策と地域秩序の再編——中国、台湾、香港の場合

研究組織（肩書は研究期間終了時のものである）

宇野 重昭（島根県立大学総合政策学部教授・学長）

鹿 錫俊（島根県立大学総合政策学部教授・北東アジア地域研究センター主任研究員）

貴志 俊彦（島根県立大学総合政策学部助教授）

唐 燕霞（島根県立大学総合政策学部助教授・北東アジア地域研究センター研究員）

小野田摂子（島根県立大学総合政策学部助教授）

井村 哲郎（新潟大学人文学部教授）

川島 真（北海道大学大学院法学研究科助教授）

中園 和仁（広島大学大学院国際協力研究科教授）

別枝 行夫（研究代表者・島根県立大学総合政策学部教授・北東アジア地域研究センター主任研究員）

研究経費

平成13年度	：	2,900千円
平成14年度	：	3,300千円
平成15年度	：	3,400千円
平成16年度	：	4,400千円
総計	：	14,000千円

研究業績（著書・論文：本プロジェクトに関わるもののみ掲載）

別枝 行夫

*「戦後日中関係と中国外交官」（『北東アジア研究』第2号、島根県立大学、2001年10月）

*『台湾・国史館典藏・行政院賠償委員会档案目録』（別枝行夫・貴志俊彦・川島真編著）
（＜平成13年度－16年度科学研究費補助金・基盤研究（B）（2）「戦後処理政策と地域秩序の再編——中国、台湾、香港の場合」（研究代表者：別枝行夫、課題番号：13410110）研究成果中間報告書＞、2002年6月）

- *「日本の歴史認識と東アジア外交」（『北東アジア研究』第3号、島根県立大学、2002年3月）
- *「教科書問題と東アジア」（レポート21「21世紀地球公開講座」01年度、島根県立大学、2002年3月）
- *「新中国建国前後の日中貿易——民間団体の動向を中心に」（宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』所収、国際書院、2002年6月）
- *「北東アジアの国際関係——現在と未来」（宇野重昭編『北東アジアにおける中国と日本』所収、国際書院、2003年3月）
- *「戦後処理政策と地域秩序の再編」（『メディアセンター年報』第3号、島根県立大学、2003年3月）
- *「中国の外交政策決定過程」（北東アジア地域学術交流財団『レポート NEAR カレッジ』02年度、2003年3月）

宇野 重昭

- *「深まる侵略 屈折する抵抗一九三〇—四〇年代の日・中のはざま」（宇野編『深まる侵略 屈折する抵抗一九三〇—四〇年代の日・中のはざま』所収、研文出版、2001年11月）
- *「北東アジア学の試み」（宇野編『北東アジア学創成に向けて』所収、島根県立大学、2003年12月）
- *「島根における北東アジア研究と開発研究の特徴」（宇野編『北東アジア研究と開発研究』所収、国際書院、2002年）
- *「北東アジア研究総論」（宇野編『北東アジア研究と開発研究』所収、国際書院、2002年）
- *「中国研究の方法——歴史と統計から——」（『レポート NEAR カレッジ（2002年度）——北東アジア地域研究しまね県民大学院』から——）所収、財団法人北東アジア地域学術交流財団、2003年）
- *「北東アジア学創成の試み」（宇野編『北東アジア学創成に向けて』所収、島根県立大学北東アジア学創成プロジェクト、2003年12月）

鹿 錫俊

- *「1933年中国對日絶交計劃的浮沈——兼析『顧維鈞回憶錄』的有關觀點」（金光耀編『顧維鈞与中国外交』所収、2001年6月、上海古籍出版社）
- *「日中関係論における感情と理性——東史郎裁判を巡る論争から」（宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』所収、国際書院、2002年6月）
- *「信頼関係の構築と次世代教育——日中国交正常化30周年への省察」（宇野重昭編『北東アジアにおける中国と日本』所収、国際書院、2003年3月）
- *「記憶と歴史における物心両面」（『現代中国研究』第12号、中国現代史研究会、2003年3月）

『北東アジア研究』第10号(2006年1月)

月)

- *「台湾と日本——歴史の回顧と現状の考察」(北東アジア地域学術交流財団『リポート NEAR カレッジ』02年度、2003年3月)
- *「蒋介石の中日蘇関係観与『制俄攘日』戦略：1933～1934」(『近代史研究』総第136期、中国社会科学院近代史研究雑誌社、2003年7月)
- *「東北解放軍医療隊で活躍した日本人——ある軍医院の軌跡から」(『北東アジア研究』第6号、島根県立大学、2004年1月)

貴志 俊彦

- *「近代中国における〈都市〉の成立——不平等条約下の華と洋」(宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』所収、国際書院、2002年6月)
- *「日中戦争期、東アジア地域におけるラジオ・メディア空間をめぐる政権の争覇」(宇野重昭・増田祐司編『北東アジア世界の形成と展開』所収、日本評論社、2002年3月)
- *「国民政府による電化教育政策と抗日ナショナリズム——『民衆教育』から『抗戦教育』へ」(『東洋史研究』第62巻第2号、東洋史研究会、2003年9月)
- *「重慶国民政府による日本語プロパガンダ放送」(『アジア遊学』第54号、勉誠出版、2003年8月)
- *「日中通信問題の一断面——青島佐世保海底電線交渉をめぐる多国間交渉——」(『東洋学報』第83巻第4号、財団法人東洋文庫、2002年3月)。中文版は、「日中通信問題の一個断面——圍繞青島佐世保間海底電纜一事の多国交渉」(天津社会科学院歴史研究所・天津市城市科学研究会編『城市史研究』第21輯特刊、天津社会科学院出版社、2002年3月)。
- *「不平等条約体制下東アジアにおける外国人の法的地位に関する事例研究(1)」(『メディアセンター年報』第4号、島根県立大学、2004年3月)
- *『中国黄渤海地域における都市化とメディアの多様化に関する研究(1870～1954)』、(〈平成11年度～14年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)〉(研究代表者：貴志俊彦、課題番号：11610386)研究成果報告書)、2003年3月)

【データベース構築】

- *「戦前期東アジア絵はがきデータベース」
<http://gsv.u-shimane.ac.jp/t-kishi/postcards/> (2004年12月)
- *「北東アジア地域の社会科学研究のための資料・書誌情報データベース」
<http://gdb.u-shimane.ac.jp/neardb/index.jsp> (2004年1月)
- *貴志俊彦・石川正敏・井上治「北東アジア地域の社会科学研究のための資料・書誌情報データベース」(『メディアセンター年報』第4号、島根県立大学メディアセンター、

2004年3月)

- *「北東アジア地域の社会科学的研究のための資料・書誌情報データベースの紹介」(石川正敏・井上治と共著)(島根県立大学メディアセンター報『界限』第13号、2003年12月)

小野田 摂子

- *「戦後復興と環境関連のシステム」(『総合政策論叢』第1号、島根県立大学、2001年4月)
- *「国家と記憶——原因・結果・価値」(『北東アジア研究』第1号、島根県立大学、2001年4月)

唐 燕霞

- *『中国の企業統治システム』(単著)(御茶の水書房、2004年12月)
- *「計画経済期の国有企業——社会学の視点からの考察」(『北東アジア研究』第2号、島根県立大学、2001年10月)
- *「『単位』制度の変化と企業統治——中国国有企業における党の影響力をめぐって」(日中社会学会『日中社会学研究』第10号、2002年8月)

井村 哲郎

- *「拡充前後の満鉄調査組織(Ⅰ)——日中戦争下の満鉄調査活動をめぐる諸問題」(『アジア経済』第42巻第8号、2001年8月)
- *「拡充前後の満鉄調査組織(Ⅱ)——日中戦争下の満鉄調査活動をめぐる諸問題」(『アジア経済』第42巻第9号、2001年9月)
- * (共著)『台湾総督府文書目録』第9巻(中京大学社会科学研究所編、ゆまに書房、2001年12月)
- *「解題」(梅田純子・北村明恵編「米国議会図書館日本コレクション所蔵東アジア関係日本語文献リスト」[『近現代東北アジア地域史研究会 ニューズレター』第13号、2001年12月])
- *「岩崎健夷氏ヒアリング記録(Ⅳ-完)——総務庁参事官・敗戦前後・引揚援護活動」(『環日本海研究年報』第9号、2002年3月)
- *「末期満鉄調査の組織・人員・予算」(『中国世界における地域社会と地域文化に関する研究』第1輯<平成13年度>、新潟大学大学院現代社会文化研究科「中国世界における地域社会と地域文化に関する研究プロジェクト」、2002年3月)
- *「中国東北における日本語史資料の所在と最近の米国議会図書館日本語文献事情」(<科学研究費補助金「海外所在日本関係資料」(研究代表者：松原孝俊九州大学教授)報告書>、2002年3月。
- *「戦前期アジア研究と日本語資料」(横浜国立大学経済学会『エコノミア』2002年3月号)

『北東アジア研究』第10号(2006年1月)

- *「米国議会図書館日本コレクション所蔵 CLC 東アジア関係日本語文献目録」(新潟大学プロジェクト推進経費「環日本海地域像共有のための学際的研究」報告書、2002年3月)
- *「進む歴史文書のデータベース化——戦前期の日本・アジア関係を中心に」(『アジア研ワールド・トレンド』第79号、2002年4月号)
- *「植民地史資料論」(檜山幸夫編『台湾総督府文書の史料学的研究—日本近代公文書学研究序説』、ゆまに書房、2003年)
- *「史料解題 満鉄資料館(中国・吉林省长春市)所蔵・未公開史料から」(鳥根県立大学『メディアセンター年報』Vol. 3、2003年3月)
- *「米国議会図書館日本コレクション所蔵東アジア関係日本語文献目録=CLC 整理分=予備版Ⅱ 満鉄編(Ⅰ)」(『北東アジア地域の社会変動と人口移動 研究成果報告書』2003年3月)
- *「『日滿支インフレ調査』と満鉄調査組織」(『アジア経済』第44巻第5・6号、2003年5・6月合併号)
- * (編著)『ロシア国立歴史文書館所蔵「中東鉄道文書」にみる19世紀末——20世紀初頭中国東北の国際関係』<平成15年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)(研究代表者:井村哲郎)研究成果中間報告書>、2004年2月)
- * (編著)『サンクト・ペテルブルグ所在史料に見るアジア——サンクトペテルブルグ創建300年記念 新潟大学人文学部・サンクトペテルブルグ大学東洋学部共催国際ワークショップ』(<平成15年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)研究成果中間報告書>、2004年2月)
- *「国際シンポジウム『中国東北と日本:資料の現状と課題』報告」(『環日本海研究年報』[新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室]第12号、2005年2月)
- * (編著)『ロシア国立歴史文書館所蔵「中東鉄道文書」にみる中国東北の国際関係』(<平成16年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)研究成果報告書>、2005年3月)

中園 和仁

- *「米ソ冷戦と香港カード」(鳥根県立大学・特別調整研究費共同研究報告書『1940~50年代——東アジアにおける体制変容と地域秩序の再編』所収、2001年4月)
- *「香港特別行政区第二期立法会選挙の分析——着実に勢力を拡大する親中派政党」(『国際情勢季報』NO. 73、国際情勢研究会。2003年3月)
- *「董建華政権二期目の政治課題——高官問責性の導入と基本法二十三条の立法化」(『東亜』NO. 433、霞山会、2003年7月)
- *「『一国二制度』下の『鳥籠民主』—香港の民主化と中央政府」(『海外事情』、拓殖大学海外事情研究所、2005年1月)

川島 真

- *『中国近代外交の形成』(単著)(名古屋大学出版会、2004年2月)
- *「民国前期外交與紹介的初歩探討」(『城市史研究』<特刊・20世紀華北城市近代化>21輯、天津社会科学院出版社、2002年10月)
- *「『南満洲』の解釈可能性——対華二一箇条交渉における議論の中で」(『アジア遊学』44号、2002年10月)
- *「アジアから見た『アジア』、『地域』、そして『周辺』——東アジアの歴史学界の断層面」(横山宏章・久保亨・川島真編著『周辺から見た20世紀中国——日・韓・台・港・中の対話——』所収、中国書店、2002年12月)
- *「台湾の日本研究」(『アジア遊学』第48号)、2003年2月)
- *「『中国』——帝国、主権、そして大国 近一五〇年間における『中国』の形成」(『比較文明』19号、2003年12月)

学会報告・研究会報告等 (本プロジェクトに関わりのあるものを掲載する)

別枝 行夫

- *「歴史認識と日中関係」(世界華人政治学家フォーラム「現代中国政治と日中関係の展望」、於：島根県立大学、2001年7月)
- *「北東アジアの国際関係—現在と未来」(北京大学国際関係学院と島根県立大学の合同シンポジウム「北東アジアにおける中国と日本」、於：島根県立大学、2002年10月)
- *「戦後日本首相の靖国神社参拝」(蔚山大学校と島根県立大学の合同シンポジウム、於：韓国・蔚山大学校、2004年3月)
- *「日中韓関係の視点」(日本日中関係学会・島根県立大学北東アジア学創成プロジェクト合同シンポジウム「北東アジアにおける共同体を目指して」、於：島根県立大学、2004年12月)
- *「対日講和条約・吉田書簡・日華平和条約」(<平成13年度—16年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2「戦後処理政策と地域秩序の再編——中国、台湾、香港の場合」(研究代表者：別枝行夫、課題番号：13410110)主催シンポジウム>、於：島根県立大学、2005年1月)

宇野 重昭

- *「北東アジア共同体への接近方法をめぐって」(日本日中関係学会・島根県立大学北東アジア学創成プロジェクト合同シンポジウム「北東アジアにおける共同体を目指して」、於：島根県立大学、2004年12月)
- *招待講演・基調講演「多文化世界に対する日本の接近——普遍性と個別性——(Japanese

Approach to Multicultural World——Universality and Particularity——) (北京大学国際関係学院主催「21世紀：東亜文化与国際社会 (The 21st Century: Culture in East Asia in the Relation to the International Community)」中華人民共和国北京市、達園賓館、2001年7月10～11日) (梁守徳主編『21世紀：東亜文化与国際社会』中国、当代世界出版社、2002年として発行・出版)

- *「地域研究を基礎に『中国自身にそくした』中国研究へ」(愛知大学21世紀 COE プログラム・国際シンポジウム「激動する世界と中国——現代中国学の構築に向けて——」名古屋国際センター別棟ホール・2003年10月31日)
- *「北東アジアの共同体構想をめぐって」(日本学術会議学術シンポジウム「地域の発展と北東アジア世界」、日本学術会議(第1部)・島根県立大学主催、島根県立大学講堂、2004年7月7日)
- *「北東アジアの地域間ネットワークと北東アジア学」(鳥取大学地域学部設置記念／鳥取県——中国吉林省・大韓民国江原道交流10周年記念「北東アジア地域学国際会議」、鳥取大学共通教育棟208教室、2004年7月27日)
- *「北東アジア共同体への接近方法をめぐって」(日本日中関係学会・島根県立大学北東アジア学創成プロジェクト合同シンポジウム「北東アジアにおける共同体を目指して」、島根県立大学交流センター2階コンベンション・ホール、2004年12月10日)

鹿 錫俊

- *「日中関係における感情的障害とその克服」(世界華人政治学家フォーラム「現代中国政治と日中関係の展望」、於：島根県立大学、2001年7月)
- *「1930年代中日蘇關係的兩個問題」(台湾師範大学歴史研究所主催講演会での講演、於：台北、2001年10月)
- *「蒋介石の中日蘇關係観と『制俄攘日』戦略：1933～1934」(中国社会科学院近代史研究所等主催「中華民国史国際シンポジウム」、於：北京、2002年8月)
- *「『防共』問題を巡る日中間の相剋：1935-1936年」(日本国際政治学会2002年度研究大会での報告、於：兵庫県淡路島、2002年11月)
- *「中日關係的心理障碍」(中国中外關係史学会・復旦大学・上海外国語大学共催「東亜漢文化圈与中国關係」国際シンポジウム、於上海、2004年2月)

貴志 俊彦

- *“Power Struggles in the Radio Media Sphere in East Asia Region during the Sino-Japanese War”(カリフォルニア大学バークレイ校と島根県立大学との学術研究交流シンポジウム「北東アジア世界の形成と社会経済発展：北東アジア研究の方法論に向けて」、於：島根県立大学、2001年11月)

- *「啓蒙と抗日のはざままで——国民政府による電化教育政策をめぐって」及び「第一次大戦後の在華外国人管理問題——条約未締結国国民の処遇をめぐって」（神奈川県人文学会ワークショップ「東アジア近代史とラジオ放送の誕生」於：神奈川県、2001年11月）
- *「『大英帝国』の周縁にいる人々の記録」（早稲田大学 **British Studies** 研究所・第1回国際セミナー「歴史としての20世紀：自己認識と他者認識」於：早稲田大学国際会議場、2003年3月）
- *「『大東亜共栄圏』構想の解釈」（立教大学日本学研究所と科学研究費「東アジアにおける外国人の法的地位」＜研究代表者：貴志俊彦、課題番号：15202014＞合同シンポジウム「地域認識としての東アジアとアイデンティティ」、於：立教大学、2004年5月）
- *「不平等条約体制下の東アジアの外国人の法的地位研究」（延世大学国学研究院主催・韓日学術シンポジウム「20世紀東アジア研究のための新たな視点の模索」、於：韓国・延世大学、2004年9月）
- *「北東アジアにおけるトランスナショナル・コミュニティをめぐる歴史と現状」（科学研究費「東アジアにおける外国人の法的地位」＜研究代表者：貴志俊彦、課題番号：15202014＞主催・国際シンポジウム「北東アジアにおけるトランスナショナル・コミュニティとアイデンティティ化」、於：明治大学、2004年11月）
- *「戦前東アジア絵はがきデータベースの構築」（国際ワークショップ「アジア研究における資料情報の共有化——タイ・カンボジア・ベトナムにおける歴史 GIS/RS の現状」、於：京都大学東南アジア研究所バンコク連絡事務所、2005年3月）
- *「第一次大戦後の在華外国人管理問題——条約未締結国国民の処遇をめぐって」（日台国際シンポジウム「国籍・移民・アイデンティティ——東アジア史の視点から」、於：台湾大学東アジア文明研究センター、2005年3月）

中園 和仁

- *「台湾問題と日中関係——安全保障の視点から」（世界華人政治学家フォーラム「現代中国政治と日中関係の展望」、於：島根県立大学、2001年7月）

川島 真

- *「戦後台湾における日本研究動向と中国との比較に関する一考察」（国際研究会「大学日文学と社会結合度」、於：台北・国立政治大学、2002年5月）
- *「植民地化と被侵略の歴史像——中華民国期の中国近代史像」（「東アジア近代史学会」、於：早稲田大学、2002年6月）
- *「有関朝鮮半島の中国租界撤廃的中日交渉」（「中華民国史（1912-1949）国際学術討論会」、於：中国社会科学院近代史研究所、2002年8月）

- *「対日賠償請求権問題と中華民国」(日本国際政治学会研究大会、於：淡路夢舞台国際会議場、2002年11月)
- *「対日賠償要求問題與中華民国」(「第二次中華民国史青年学者国際学術研討会」、於：南京大学中華民国史研究中心、2002年12月)

おわりに

日本学術振興会には、4年間に互り多額の科学研究費だけでなく、今後の研究継続の契機を提供されたことに対して謝意を表す。

最後に、元新潟大学人文学部教授古厩忠夫氏(故人)とのかかわりに触れることをお許しいただきたい。古厩教授はメンバーの井村に協力して、第2年目に実施した「新潟研究会」を準備された。氏が当時すでに重篤な病魔に侵されていたにも拘らず、本プロジェクト研究への助言を惜しまれなかったことをここに記し、感謝の意を表し、故人の冥福をお祈りする。

[2005年12月]

(BESSHI Yukio)